

江戸時代260年の物語

盤石な支配、度重なる改革、そして時代の終わり



高校入試・重要ポイント完全解説

プロデューサーノ告
このプレゼンは、江戸時代を3つのパートに分けた
「物語」として解説します。時代の大きな流れを掴め
ば、たくさんのキーワードも覚えやすくなります

これから学ぶ、江戸時代の3つの「幕」

第一幕：盤石な 支配の確立

幕府はいかにして260年の
平和の礎を築いたか？

第二幕：揺らぐ幕府 と改革の時代

なぜ幕府は何度も改革を繰
り返す必要があったのか？

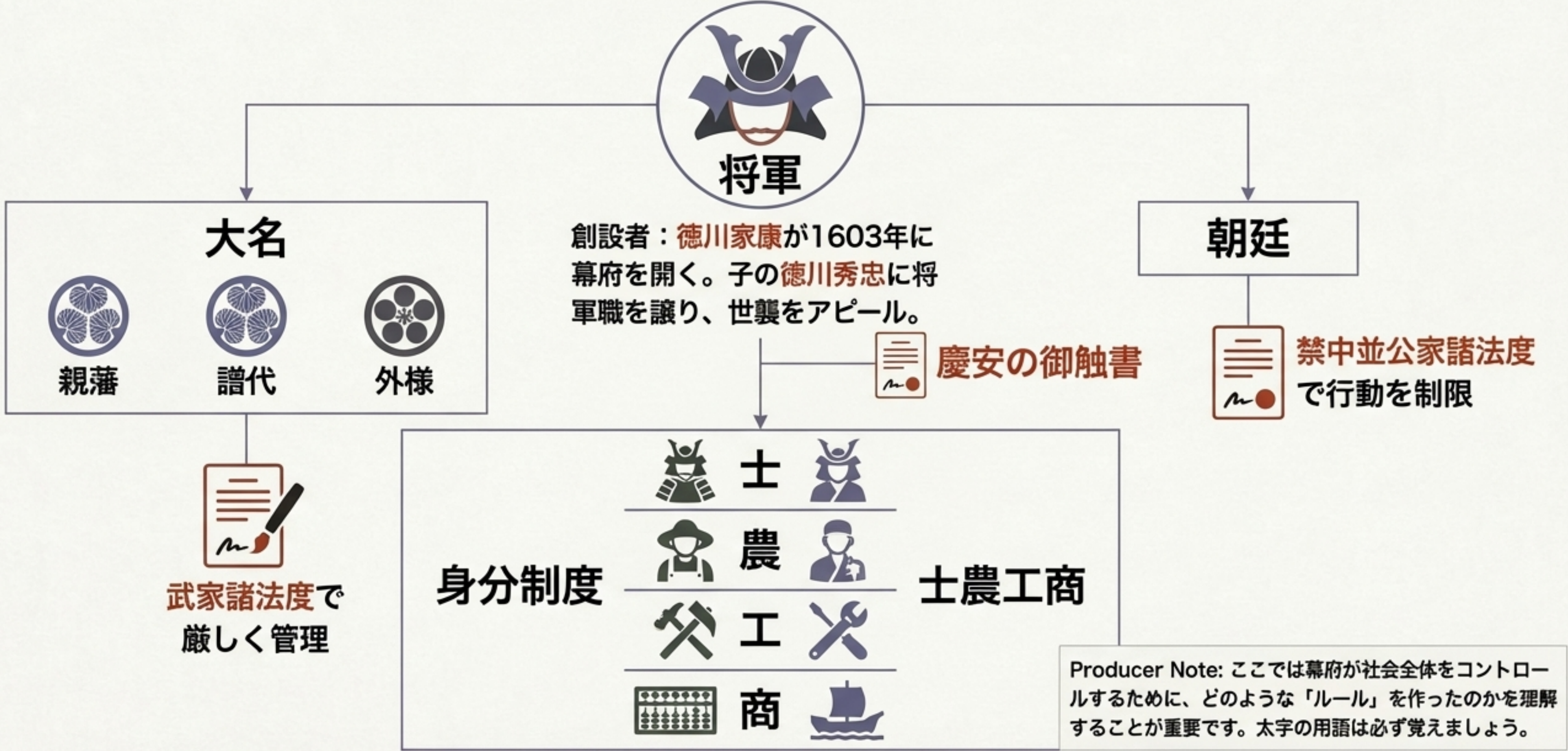
第三幕：黒船来航と 時代の終焉

何が武士の世を終わらせ
たのか？

特別編：花開く町人文化

Producer Note: この物語の構成を頭に入れるだけで、江戸時代の大きな流れが理解しやすくなります。各時代の「なぜ？」を考えながら見ていきましょう。

徳川の天下：支配体制の設計図



脅威の排除と「鎖国」への道

- キリスト教の禁止

「人は皆平等」という教えを脅威とみなし、**踏絵**や**寺請制度**で弾圧。

- 最後の抵抗

キリシタン大名の反発から**島原・天草一揆**（指導者：**天草四郎**）が起こるが、武力で鎮圧。

- 鎖国の完成

3代将軍 **徳川家光**の時代にポルトガル船の来航を禁止し、鎖国が完成。

- 鎖国の目的

キリスト教の徹底禁止と、貿易利益の独占。

- 限定的な貿易

布教の恐れがないオランダ（**出島**、**オランダ商館**）と清（**唐人屋敷**）とのみ貿易を継続。



Producer Note: なぜ幕府は鎖国を選んだのか？
その「目的」とセットで覚えるのがテストで点を取るコツです。

揺らぎ始める幕府の権威



- 権威の失墜** 5代将軍 **徳川綱吉**が**生類憐みの令**などの極端な政策を行い、人心が離れる。
- 財政難の始まり** 綱吉の死後、**新井白石**が**正徳の治**で立て直しを図るも、混乱は収まらず。
- 幕府の課題** 「信頼回復」と「財政再建」がこの後の時代の大きなテーマとなる。

Producer Note: ここから幕府の「苦悩」の時代が始まります。綱吉の政治が、後の改革のきっかけになったことを理解しましょう。

幕府の立て直し：三大改革の挑戦

享保の改革（8代将軍 徳川吉宗）	寛政の改革（老中 松平定信）	天保の改革（老中 水野忠邦）
		
享保の改革（8代将軍 徳川吉宗） 目的: 財政再建 - 上米 - 目安箱の設置 - 公事方御定書の制定	寛政の改革（老中 松平定信） 目的: 幕府の権威回復、質素儉約 - 囲米 - 棄捐令 - 寛政異学の禁（朱子学のみ許可）	天保の改革（老中 水野忠邦） 目的: 財政再建と社会統制 - 株仲間の解散 - 上知令（大名の反対で失敗）

補足: 改革の間に田沼意次が株仲間を奨励し商業を重視したが、わいろ政治で失脚。

Producer Note: 三大改革は、入試最頻出テーマの一つ。この表を使って、誰が・何を・何のために行ったのかを整理してください。田沼意次の政治も対比で覚えておくと完璧です。

内憂外患：国内の反乱と迫りくる外国船

内憂（国内の問題）



- 天明の大きなきん・天保の大きなきんにより社会不安が増大。
- 元役人である大塩平八郎が大坂で反乱。幕府に衝撃を与える。

外患（国外からの圧力）



- ロシアのラクスマン、レザノフが通商を求めて来航。
- 幕府は異国船打払令で強硬な姿勢を示す。
- しかし、清がアヘン戦争でイギリスに敗れたことを知り、方針を転換。

Producer Note: 幕府が「内（国内の反乱）」と「外（外国）」の両方からプレッシャーを受けていた状況をイメージしましょう。この危機感が、次の時代の幕開けにつながります。

1853年、黒船が太平の眠りを覚ます

- **ペリー**が浦賀に来航。幕府は開国を決定し、**日米和親条約**を締結。
- **不平等条約の締結**：領事裁判権を認め、関税自主権がない**日米修好通商条約**を結ぶ。
- **国内の反発**：大老 **井伊直弼**が反対派を弾圧（**安政の大獄**）。**吉田松陰**らが処罰される。
- **井伊直弼の暗殺**：反発した武士により、**桜田門外の変**で暗殺される。



Producer Note: ペリー来航がすべての引き金です。ここから幕府滅亡まで、わずか15年。出来事が連鎖していくスピード感を感じてください。

倒幕へ：薩摩と長州、手を結ぶ

尊王攘夷論（天皇を尊び、外国を追い払う思想）の高まり。

攘夷の実行と挫折

- **薩摩藩**: 生麦事件をきっかけにイギリスと**薩英戦争**。
- **長州藩**: **下関砲撃事件**で四力国連合艦隊と交戦。
- 両藩とも外国の圧倒的な軍事力に敗北し、「攘夷は不可能」と悟る。

目的の転換

- **坂本龍馬**の仲介で**薩長同盟**が成立。目標を「攘夷」から「**倒幕**」へと切り替える。



Producer Note: 最初は外国を追い払おうとしていた薩長が、なぜ倒幕に考えを変えたのか？この「思考の転換」が歴史を大きく動かしました

大政奉還：260年続いた武士の世の終わり



政治権力の返上

15代将軍 徳川慶喜は、薩長同盟との戦いに勝ち目はないと判断し、政権を朝廷に返す**大政奉還**を行う。これにより江戸幕府は形式上終わる。

最後の抵抗

これに納得しない旧幕府軍が**戊辰戦争**を起こす。

戦争の終結

鳥羽・伏見の戦いから始まり、函館の**五稜郭の戦い**で新政府軍が勝利。武士の時代が完全に終わる。

新時代へ

明治時代へと移行。

Producer Note

大政奉還で江戸幕府は終わりましたが、その後の戊辰戦争で完全に武士の時代が終わった、という流れを掴みき

元禄文化と化政文化：二つの町人文化

元禄文化（上方中心・17世紀末～18世紀初頭）

特徴：経済力を持った町人（特に商人）が担い手。
豪華で活気がある。



人物と作品

近松門左衛門：人形浄瑠璃

井原西鶴：浮世草子

松尾芭蕉：俳諧（『奥の細道』）

尾形光琳：装飾画（かきつばた図屏風）

化政文化（江戸中心・19世紀初頭）

特徴：江戸の庶民が担い手。皮肉や風刺、庶民の生活がテーマ。



人物と作品

葛飾北斎：浮世絵（『富嶽三十六景』）

歌川（安藤）広重：浮世絵（『東海道五十三次』）

Producer Note

文化は「いつ」「どこで」「誰が」をセットで覚えるのが基本です。元禄はリッチな上方、化政は庶民的な江戸、とイメージで覚えましょう。

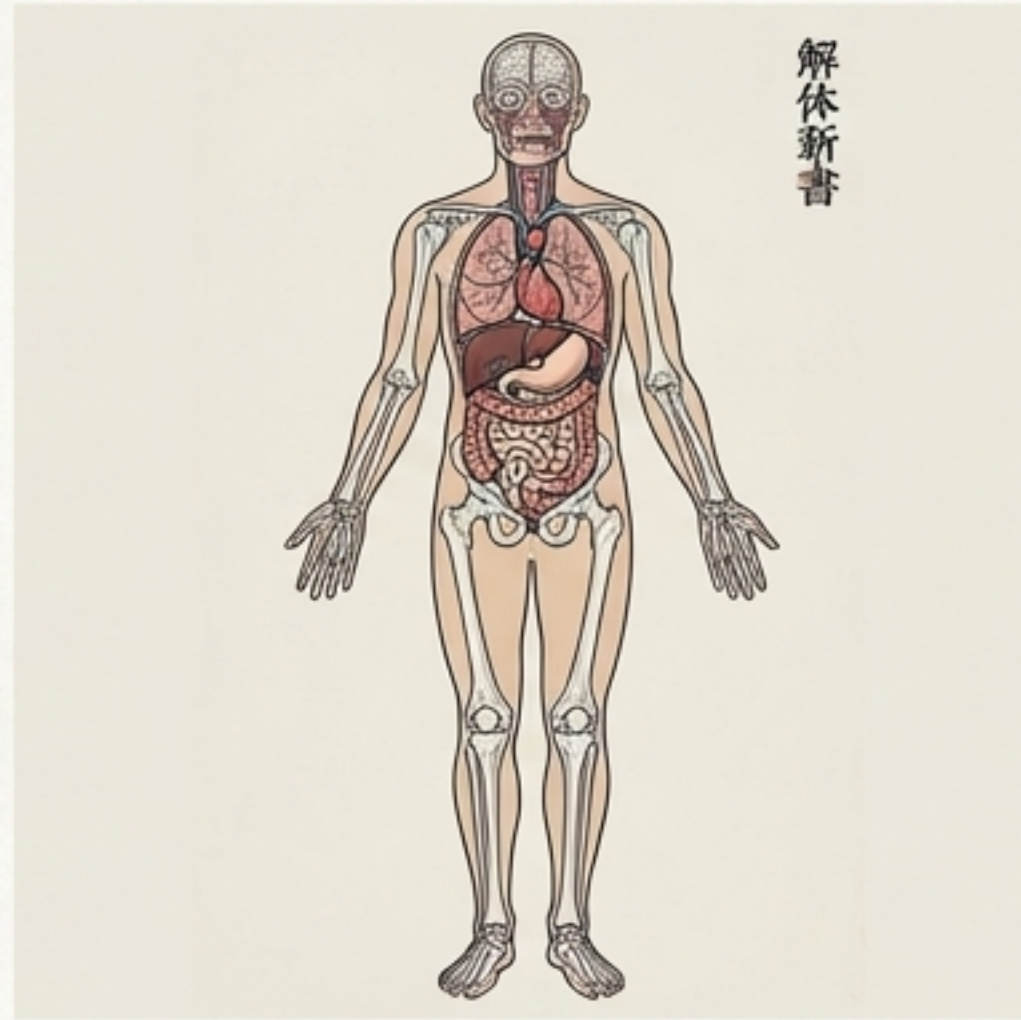
学問の広がり：蘭学・国学と教育

庶民の教育



庶民の教育：寺子屋が普及し、「読み・書き・そろばん」が広まる。
武士の教育：各藩が藩校を設立。

西洋への窓 蘭学



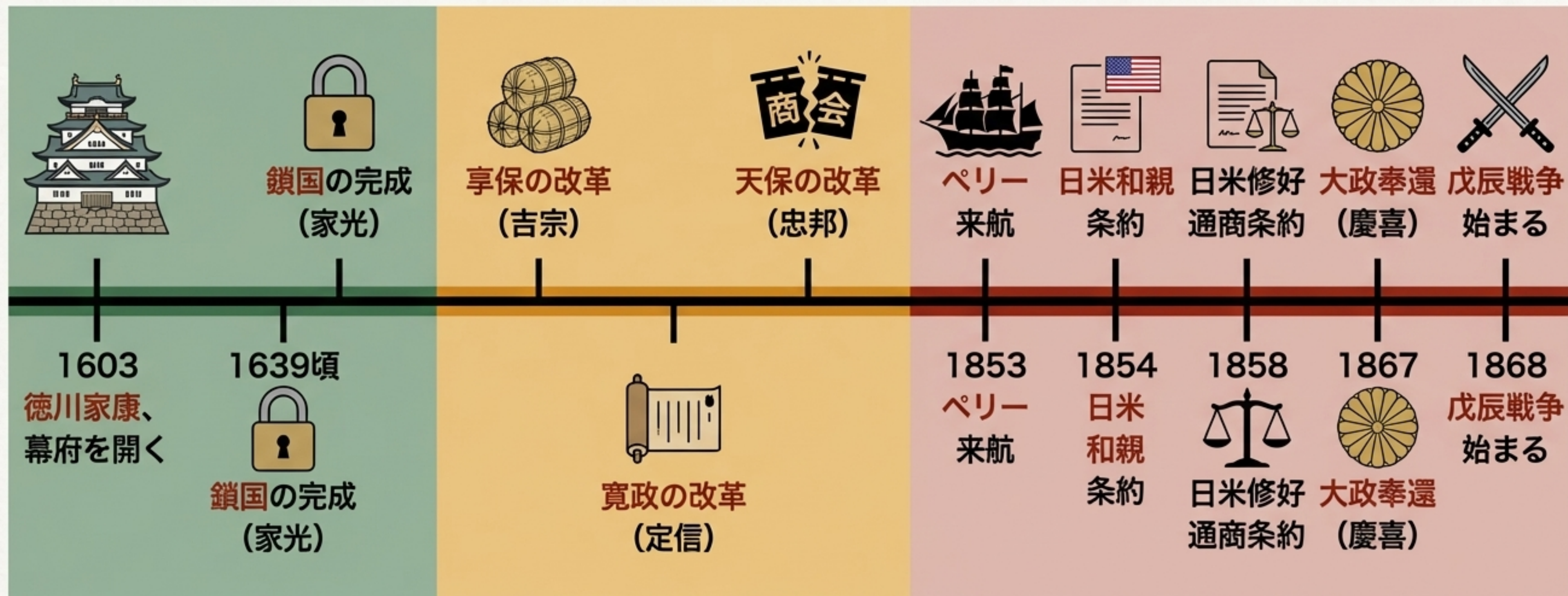
オランダ語を通じて西洋の医学や科学を学ぶ。
杉田玄白・前野良沢らが『解体新書』を翻訳。

日本のルーツを探る 国学



日本の古典を研究し、独自の文化を見直す。
本居宣長が『古事記伝』を完成させる。

一目でわかる！江戸時代260年の重要イベント



江戸時代の物語は、次の時代へ続く

江戸時代の安定と、幕末の大きな混乱。

この時代の経験が、明治維新、そして現代の日本へとつながっています。

この物語の流れを掴んで、自信を持って試験に臨んでください！



がんばれ、受験生！